

パネルディスカッション

こまちふらす大塚様にモデレーターを務めていただき、各NPO団体の皆様と事前課題の回答をもとにパネルディスカッションを実施しました



【事前課題】

- Q1. 自分たちの活動に「協働・連携」は必要か？
- Q2. 協働や連携を通して実現したいことは何か？
- Q3. 皆さんの目指すものや活動の価値を伝えるものは？
- Q4. 民間事業者との連携が難しいと感じる点は何か？
- Q5. 民間事業者と接する際に気を付けている点があれば教えてください
- Q6. 事前準備会の参加を終えて変化したところがありますか？
- Q7. 資料を作成する際に意識した点や気を付けた点を教えてください





Q1.自分たちの活動に「協働・連携」は必要か？(可能であれば理由もお聞かせください)

(参加前) 必要不可欠。若者たちに多種多様な将来の選択肢を提示するため。

(参加後) 必要不可欠。学校での教育活動を地域・社会に開かれたものにしていくため

Q2.協働や連携を通して実現したいことは何か？

(参加前) 10代の若者と第三の大人の出会い→生き抜く力を育む→誰もが未来を描ける社会

(参加後) 必要不可欠。学校での教育活動を地域・社会に開かれたものにしていくため

Q3. (誰かとパートナーシップを組もうと思った時)皆さんの目指すものや活動の価値を伝えるものは？

(参加前) 現場(生徒や先生)のリアルな声…感想やアンケート、写真等 / 若者たちの現状・社会課題の共有 /
フィロソフィーの共感、長期的・継続的なパートナーシップの構築

(参加後) 若者の”将来の選択肢”を広げ、”生き抜く力”をともに育みたい
→若者たちの現状、社会課題の共有 / フィロソフィーの共感、長期的・継続的なパートナーシップの構築

Q4.民間事業者との連携が難しいと感じる点は何か？

(参加前) 「キャリア教育」という分野への支援の必要性の共有。連携の継続性。

(参加後) 「キャリア教育」が学校の中で行われるため、支援の必要性が伝わりにくい / 民間事業者にとっての“明確なメリット”が目に見えにくい

Q5.民間事業者と接する際に気を付けている点があれば教えてください

(参加前) フィロソフィーへの共感。学校に寄り添った形でプログラムづくりに協力いただけるか

(参加後) フィロソフィーへの共感 / 継続的な活動が可能かどうか

Q6. 1回目のダイアログの参加を終えて変化したところがありますか？また変化があった場合は、どの部分か変化がない場合は理由をお聞かせ下さい。

民間事業者さんとの連携というものを一元的にとらえていた。もっとこちらの情報提供の方法や視点を変えていけば、関わり方や連携の視点を広く、柔軟に関わりしろをつくっていけるのではないかと感じました。

Q7.資料を作成する際に意識した点や気を付けた点を教えてください。また資料を作る際に難しいと点があれば教えてください。

アスリードの活動が、どんな未来につながっていくのかを感じていただけること

見てくださる方々が、「自分ならどんなかわり方ができるか」イメージできるようにすること

Q1.自分たちの活動に「協働・連携」は必要か？(可能であれば理由もお聞かせください)

(参加前) ・自団体だけでは社会問題は解決せず、民間企業の協力や、問題の外にいる人にも関心を持ってもらいたいため
・受益者負担ができないサービスなので、それ以外のところで収益が立つと嬉しい

(参加後) 必要。発表を聞いて、自団体の取り組みのためだけでなく、取り組みに賛同する共感者を集める上でも協働・連携は重要だと感じた

Q2.協働や連携を通して実現したいことは何か？

(参加前) 双方に取り組む意義があり、社会問題の解決の前進につながる

(参加後) 双方に取り組む意義があり、社会問題の解決の前進につながる

Q3. (誰かとパートナーシップを組もうと思った時)皆さんの目指すものや活動の価値を伝えるものは？

(参加前) 「青少年が生きたいと思える社会」

(参加後) 「青少年が生きたいと思える社会」

Q4.民間事業者との連携が難しいと感じる点は何か？

(参加前) 民間事業者からすると連携するメリットを見出しにくい、長期的な成果を目指している団体 のため、企業の時間軸とずれやすい
例えば、社員がイベントのボランティアに参加する、会社でも使える相談窓口などだったらわかりやすい

(参加後) 何を協働すれば良いのかというのは引き続き課題だが、自分たちで案を決め打ちするのではなく、民間事業者とともにオープンに話し合うことで案が見えてきそうだということがわかった。

Q5.民間事業者と接する際に気を付けている点があれば教えてください

(参加前) 民間事業者のメリットにもなりつつ、団体のポリシーを逸脱しないこと

(参加後) 自分たちの話をするのではなく、相手の話を聞くことが重要だということがわかった。

Q6. 1回目のダイアログの参加を終えて変化したところがありますか？また変化があった場合は、どの部分か変化がない場合は理由をお聞かせ下さい。

発表を聞いて、民間事業者との協働は、まずはオープンな対話から始めると良いということがわかりました。自分たちの話をするばかりではなく、相手が達成したいことを聞き、双方にとって良いかたちが見つかった時に協働がうまくいくのだろうということがわかりました。

Q7.資料を作成する際に意識した点や気を付けた点を教えてください。また資料を作る際に難しい点があれば教えてください。



Q1.自分たちの活動に「協働・連携」は必要か？(可能であれば理由もお聞かせください)

(参加前) 必要

(参加後) 「多文化共生」社会とは、外国人と日本人の二項対立ではない。他世代、他業種、の異なる文化をもつ人同士が、対話を重ねて、顔が見える交流をすることで、相互理解が進んでいる

Q2.協働や連携を通して実現したいことは何か？

(参加前) 無理なく安定的に継続できる基盤整備(地球っ子教室の支援者増) / 現役の若手世代の参加により、広く未来の地域活動へとつなぐ
多種多様な他者の発想による挑戦、効率的な仕組みの模索

(参加後) キャンセル待ちの状況が減り、子どもたちの学習機会が増える / 多様な支援者が増え、子どもたちが出会う大人が多様になる

Q3. (誰かとパートナーシップを組もうと思った時)皆さんの目指すものや活動の価値を伝えるものは？

(参加前) ウェブサイトやSNSによる発信、参加者の声の共有など / 見えにくい困りごと、数値化しにくい価値を感じる、気づくこと

(参加後) Facebookページ、Instagramのフォロワー数が増えている / 外国ルーツの人たちの困りごとを想像できる状態になっている

Q4.民間事業者との連携が難しいと感じる点は何か？

(参加前) 何のために誰のために、共有。スピード、プロセス・ゴールの差異など

(参加後) (最初はズレがある。よくわからない状態)予算がない中でもできること、持続できることが模索できる。
参加してみることで、一人ひとりの困りごとに気づけるようになる。
対話を重ねることで、企業とNPO活動の違いを認識できるようになる。

Q5.民間事業者と接する際に気を付けている点があれば教えてください

(参加前) できることとできないことを率直に伝え合う。対話を重ねる。

(参加後) 納得して進められている。伝えあえている。共有できている












Q6. 1回目のダイアログの参加を終えて変化したところがありますか？また変化があった場合は、どの部分か変化がない場合は理由をお聞かせ下さい。

シンプルに伝わる。「言語化」「視覚化」を、より意識するようになった。

Q7.資料を作成する際に意識した点や気を付けた点を教えてください。また資料を作る際に難しいと点があれば教えてください。

文章の伝達の限界。教室での活動の様子の写真、実際に作成して公開している「もぐらんワーク」のコンテンツは見てもらったほうが早い。

Q8.民×民連携を実践していく場合のスケジュールのイメージを教えてください

	R8.Apr-Sep	R8.Oct-Mar	R9.Apr-Sep	R9.Oct-Mar	R10.Apr-Sep
アスリード	<ul style="list-style-type: none"> ◎連携の方向性 ◎企業様の候補検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◎アプローチは随時実施 ①学校のプログラムに関わってもらうなど、機会を作っていく ②事業ごとにアプローチしたい企業を検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◎関係性の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ◎連携の可能性を広げる 
第3の家族	<ul style="list-style-type: none"> ◎つながりのある企業でのテスト 		<ul style="list-style-type: none"> ◎営業活動 ◎新規企業の開拓内容のブラッシュアップ 		<ul style="list-style-type: none"> ◎ノウハウを展開 (講演活動や書籍など) 
地球学校	<ul style="list-style-type: none"> ◎団体内での共有 	<ul style="list-style-type: none"> ◎数社からアプローチあり 連携に向けて交渉 	<ul style="list-style-type: none"> ◎1社もしくは数社と 何かが始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ◎連携事例として 外部に発信できる 	<ul style="list-style-type: none"> ◎別の連携を、 新しい展開を開始 